（別紙３）

（公表）放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポテトフィールド			
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日	～	令和8年3月6日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	２０名	（回答者数）	１５名
○従業者評価実施期間	令和8年1月14日	～	令和8年2月28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	４名	（回答者数）	４名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年6月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員間や保護者様とお子さまの健康や体調、発達の状況等について情報共有が十分に行われている。 ・お子さまのことを職員が十分理解するように、お子さまの特性やお子さまと保護者等のニーズや課題を聞きとり、個別支援計画を作成し、お子さまに応じた支援が実施できている。 ・保護者様からも満足していただけています。	・支援開始前のミーティングや日々の記録の確認を丁寧に行い、職員間での情報の共有を図っています。 ・モニタリング等の面談へは、職員と共に参加し保護者様の思いやお子さまの気持ちを共有していけるようにしている。 ・モニタリング等の面談時にお子さまと保護者のニーズや課題を丁寧に聞き取りするよう努めています。 ・お子さまの体調等に配慮し、気持ちに寄り添うよう支援しています。 ・段階を踏んで個別支援計画を作成しています。	・継続して日々の活動の様子を保護者様へお伝えしたり、丁寧にお話を聞きとり、支援に反映させていきます。 ・活動内容を記録し、発達状況を把握しやすいよう努めていきます。 ・支援目標は段階を踏んで取り組みできるよう設定していきます。
2	・事業所の生活空間は、こどもにわかりやすい環境になっている。 ・事業所の生活空間は、清潔でこどもたちが心地よく過ごせる環境になっている。また、こどもたちの活動に合わせた空間になっている。	・毎日掃除・消毒を行っています。設備の不具合の有無等を確認してサービス提供に備えています。サービス提供中も掃除・消毒を実施し、異物の誤飲事故防止等に気をつけています。 ・ご利用の人数や活動状況、時間帯によってお子さまが快適に過ごせるよう、また気持ちを落ち着かせたり、穏やかに過ごす場所や時間も作れるよう配慮しています。	・建物自体の築年数が古いため、設備等の不具合の確認は継続して実施していきます。机、テーブル、イスなどの備品は必要に応じて入替えを検討していきます。 ・お子さまがご利用中怪我をすることなく、安全・快適に過ごせるようチェック表を活用して、怪我・事故防止に努めていきます。
3	・お子さまは安心感をもって通所し、事業所の利用を楽しみにしている。保護者様からも事業所の支援に満足していただけています。	・お子さまの体調や気持ちに寄りそいながら支援しています。 ・お子さまと職員との関わり、こどもたち同士の関わりが持てるよう配慮しています。 ・活動のプログラムが学校や通園施設、ご家庭等での取り組みに反映されるような内容になるよう工夫しています。 ・お子さまが楽しみや得意なことを増やしていけるよう支援したり、各活動を見直しています。	・今後もお子さまや保護者様に満足していただけるよう、支援方法や各活動を見直し、改善していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会。	・保護者様やお子さまからの要望が少ない。 ・お子さまが利用する時間帯がそれぞれ異なるため、交流する機会の設定が難しい。 ・事業所での業務（モニタリング等の面談、ミーティング、記録の作成、お子さまへの支援）もあるため、交流機会の設定が難しい。	・支援の連続性や地域社会への参加・インクルージョンの推進の観点を職員間で再確認していきます。 ・お子さまの支援のネットワークや事業所の連携機関を再確認していきます。
2	・家族支援として、保護者同士の交流やきょうだい同士の交流の機会。	・保護者様やごきょうだいからの要望が少ない。 ・お子さまが利用する時間帯がそれぞれ異なるため、交流する機会の設定が難しい。 ・事業所での業務（モニタリング等の面談、ミーティング、記録の作成、お子さまへの支援）もあるため、交流機会の設定が難しい。	・保護者様やごきょうだいのご希望を聞きとりながら、どのような形で交流する機会が可能か情報を収集していきます。他の通所支援事業者や相談支援事業所と協力していけるかも検討していきます。
3	・職員の経験年数や保有資格による支援技術やお子さまへの対応力、サービス提供体制。 ・職員の資質の向上を図るために研修を受講・開催する機会の確保。	・経験年数や保有資格により、支援技術やお子さまへの対応力にバラつきが見られる。	・お子さま、保護者さまが安心して事業所をご利用いただけるよう、また経験年数のある職員、少ない職員も安心して意欲的にサービス提供できるよう、社内・社外の研修を受講、ミニ勉強会、OJT（職場内訓練）を通して支援技術の向上を図っています。 また職員それぞれの気づき・視点も大切にしながら、毎日のミーティング等を通して、支援内容や業務について情報共有を図っています。